

【設問8】 答申の「大分らしい」「大分スタイル」の美術館について具体的なイメージ等ご意見をお聞かせください。

ご意見の概要	回答件数	割合
温泉、湯けむり	59 人	7 %
山と海	52 人	6 %
自然	44 人	5 %
温泉、竹、自然、音楽	30 人	4 %
竹、竹工芸	26 人	3 %
音楽、音楽(アルゲリッチ音楽祭)	25 人	3 %
県出身の芸術家の方たちの作品を常設展示	25 人	3 %
自然と共存するイメージ(青い海、緑の山、白い湯煙(温泉)の3つの要素が感じられるコンセプト)	21 人	3 %
大分らしさにこだわる必要はない。	13 人	2 %
温泉、竹、海、山など自然の恵みを来館者に実感できるものにしてはどうか。	10 人	1 %
温泉と竹細工	9 人	1 %
竹工芸、陶芸等の大分県が得意とする分野にも力を入れて欲しい	9 人	1 %
温泉、自然。	7 人	1 %
大分で活動しているアーティストや作品を使う	5 人	1 %
温泉県大分らしい温泉博物館的な機能を持たせる 温泉博物館のものの併設。温泉をいかしたもの	5 人	1 %
意外に緑と芸術がある大分なので、そのへんをアピールしたらいい	4 人	0 %
温泉、竹、自然(山と海)	4 人	0 %
温泉など郷土色のあるもの	4 人	0 %
自然に囲まれた美術館。 異文化や歴史が混じり合う大分県	4 人	0 %
焼酎、しいたけ、かぼす、ふぐ、関アジ、関さば等の食のうまみ。	4 人	0 %
複合施設(県花・県木・県鳥の集う森、スポーツ・文化・文教の集う森、養護・介護・老人に配慮した施設で県民の顔として誇れる観光地)	4 人	0 %
足湯につかって作品を見れる	3 人	0 %
田舎	3 人	0 %

ご意見の概要	回答件数	割合
癒し	3人	0%
大分の豊かな自然(温泉、食文化など)をテーマにしたイメージ	3人	0%
外国人も自然に受け入れてくれる温かいイメージ、人情	3人	0%
竹工芸	3人	0%
竹工芸、焼き物	3人	0%
緑を多く、植樹し、四季を感じる中の美術館	3人	0%
「大分らしい」とかはほらない。それより人が集まってくる大分のシンボリック的存在となって欲しい	2人	0%
「自然環境型」ご当地美術館。	2人	0%
明るい美術館。	2人	0%
新しいものを発信できて古いものを大切に感じられる美術館	2人	0%
海・山・温泉・竹・名勝・旧跡・歴史・文化・音楽・工芸・芸術	2人	0%
海と山温泉のけむり	2人	0%
大分県出身のアーティストの展示会を3ヶ月に1回のペースとする	2人	0%
大分の食、竹、温泉、音楽、香りなども有機的に結びつける相乗効果を狙った仕組みが必要である。	2人	0%
大分の竹を配置する	2人	0%
大分の歴史、偉人、特産物など、大分ならではの情報を見せる	2人	0%
音楽、色彩を感じるもの	2人	0%
温泉・竹・海・山・音楽	2人	0%
温泉と音楽。	2人	0%
温泉や食の自然を活用し、県民はもちろん、観光客が自由に利用できる美術館	2人	0%
風のおいを感じられるような美術館。	2人	0%
気楽に行ける発表の場	2人	0%
高齢化の時代なので、バリアフリーの要件を十分に満たして欲しい(家族で気軽に使えるように)	2人	0%
心安らぐ空間	2人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
借景を利用した庭園。	2人	0%
食	2人	0%
世界に誇る温泉都市。	2人	0%
竹・豊後梅	2人	0%
建物のイメージとして竹、海、温泉をイメージするオブジェを取り入れてほしい。	2人	0%
誰でも気軽に入館できる美術館。	2人	0%
誰もが美術に気軽に触れられる感じ・環境。	2人	0%
伝統工芸をあまり見る機会がないので、大分の工芸・芸術についてもっと学んでもらえるようにすれば、「大分らしい」美術館になるのでは	2人	0%
ぬくもりとやすらぎがあり、ホッとできる	2人	0%
美術館から海が見える、山が見える、空が見えるアメニティ空間であること。	2人	0%
美術品等と制作者の意図や思いがわかる美術館づくり	2人	0%
広い空間でゆっくり見てまわれる美術館	2人	0%
別府の特徴を生かす。温泉や竹を取り入れ、鶴見岳、別府湾、湯煙などの景色を生かす。	2人	0%
周りの美しい自然を取り込み、何時間でもここに滞在してくつろぎたくなるような居心地の良さ	2人	0%
緑に囲まれて、館内からも木や草、町も人も見られるような美術館がいい	2人	0%
山	2人	0%
山あり海あり温泉ありと自然と山の幸、海の幸に恵まれた土地柄をいかした美術館に	2人	0%
大分でがんばっている若い作家にスポットを当てる	2人	0%
(1)四季を感じるように、春、夏、秋、冬を感じさせる色どりに (2)「メジロン」があるようにメジロをイメージした美術館に (3)海や川をイメージした、水をテーマにしたもの。山をイメージした夕やけをテーマにしたもの	1人	0%
「異空間」のコンセプトが重要。「ディズニールランド」は、訪れた人々を非日常空間に誘うことで、成功していると聞いている。	1人	0%
「大分がどんな所」の議論をもっとして欲しい。食べ物、風習等、他県にないものが県全体として残っているものがあるだろうか。他県、都会の物を持ってきているだけなのではないかと思う。	1人	0%
「大分スタイル」=県民全員が愛せる、楽しめる、訪れやすい美術館。	1人	0%
「大分の二度鳴き」を共感できるような施設・行事を五感で味わうことができるようにしてほしい。	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
「大分らしい」「大分スタイル」の意味が理解できない。	1人	0%
「大分らしい」とはビルの上であり、大分周辺の景色が展望できる程度でいい	1人	0%
「大分らしい」にこだわりすぎると小さく収まってしまうので、「大分から世界へ」くらいの気持ちで	1人	0%
「大分らしい」は所蔵する作品そのもので決まると思う。所蔵品を常設展示できる美術館であれば、十分に「大分らしい」と言えるのではないか。	1人	0%
「大分らしい」美術館として「竹」をどう取り込むかという話について、庭内に植えるか、建物にデザインするのか、または、内庭として囲うのか。参考にしたいのは大分市美術館からの北側の風景。陽光が竹と美術館正面にどのように映えるか。	1人	0%
「大分らしい」ものが存在するとすれば、安易なデザインではなく、設立した新美術館の企画・運営による内容によって存在する。	1人	0%
「神と仏が溶け合った」美術館 「竹取物語をイメージした」美術館	1人	0%
「交流する美術館」・・・出会い・感動・郷土愛 大分の素晴らしい芸術・文化との交流は、県民一人ひとりの誇りになり、故郷への愛着が生まれ、大分のためにという献身の心が生まれる。 芸術・文化との出会いは人と人の出会いでもある。初めてそこで出会った人たちでも、芸術・文化を通して交流が生まれ、県民相互のネットワークが作られる。 異文化との交流は大分の歴史そのものである。広く視野を世界に向けることは、未来を担う子どもたちにとって、かけがえのない財産となり、大分の素晴らしさを発見する機会にもなる。 各ジェネレーションとの交流は、肥大化する世代間のギャップを埋め、孤立化する人間同士を結びつける。	1人	0%
「こころの温泉」。	1人	0%
「自然に恵まれた穏やかな地」が大分のイメージ	1人	0%
「首藤コレクション」を計画的に買い戻し、数十年後に常設コーナーを設置する。	1人	0%
「繋がって生活できる美術館」県民がいつでも利用でき、生涯教育施設として繋がり、気軽に対応してくれる美術館。	1人	0%
「繋がる美術館」県民がいつでも利用でき、子どもから大人まで生涯教育施設として繋がっていける空間であってほしい。	1人	0%
「歴史・風土を感じる」美術館。国分の歴史資料館への導入もできれば、「歴史の旅」も促せる	1人	0%
「大分スタイル」なんていません。 日本、世界中から集まる芸術作品に地方色を合わせてどうする！ 意味がわからない。	1人	0%
①大分の歴史、②歴史上の人物、③大分の自然・産業・観光の紹介のコーナーを設ける	1人	0%
①美術館を訪れば、いつでも、人間国宝 生野雲齋、思想家 福沢諭吉、画家 田能村竹田、高山辰雄、福田平八郎、彫刻家 朝倉文夫といった県出身の芸術家などに会えるという大分県ならではの特色ある展示やふるさと大分県に誇りと愛着が持てるような様々なテーマ展示を行う。 ②ただし、現代では瀬戸内国際芸術祭で見られるように観客動員力のある現代アートの比重を高めていただきたい。	1人	0%
21世紀に残したい日本の風景で、第2位になった別府の湯けむりやアジア・全国から多くの観光客が訪れる地獄を彷彿させる仕掛けが必要である。3Dで湯けむりや地獄の噴気が足下から湧き出たり、轟音など。	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
ITが益々発達していく中、美術館や図書館など情報を扱う施設のあり方は根本的に問われ続けていくことでしょう。よく「貴重な体験」といいますが、実はその体験が貴重なものになるかどうかはその人自身の問題であり、人を育てるのは出会い(広い意味の)であり、県立美術館は家人が貴重な体験を出来る出会いの場(広い意味の)であってほしいと思います。	1人	0%
OITAの「O」の形にこだわった建物や空間、仕掛けなど。	1人	0%
明るく解放的に。南蛮文化を感じられる部分もほしい。	1人	0%
明るくシンプルなイメージ	1人	0%
明るくゆったりしたくつろげる場所。	1人	0%
赤煉瓦造りの建物	1人	0%
アジア圏の展示	1人	0%
足湯	1人	0%
足湯の設置など、来館者にとって憩いの場になるような美術館がいい	1人	0%
あそびの取り入れ	1人	0%
あたたかい県民なので協力してつくりあげていく感じ	1人	0%
あたたかく包み込むような「ほっとする」昔から建っていたような美術館	1人	0%
新しい美術館のコンセプトとして、「歴史を感じる」美術館、を加えれば「大分らしい」美術館のイメージが生まれるものと思われる。大正10年、朝倉文夫が時の文部省に提出した九州美術学校建設に関する具申書に、大分県の誇れる美術事例として磨崖仏、大友宗麟の南蛮文化、田能村竹田の豊後南画が列挙されているように、大分県の特徴を示す展示コーナーを設置すべきである。 また常設展示を、例えば江戸館、明治館、大正館、昭和戦前館、昭和戦後館、平成館などに分類し、大分の歴史を感じながら鑑賞できるようにすれば、「大分スタイル」を演出できるのでは、と思われる。	1人	0%
新し物好きでぶれない信念とインターナショナルな感性を持った戦国武将大友宗麟のイメージ。	1人	0%
あらゆる分野の芸術家の出身地であること	1人	0%
いきいきしたイメージ	1人	0%
生きる希望が湧いてくるような美術館	1人	0%
偉人にあふれる大分をアピール(代表作を広場に展示し定期的に替える)	1人	0%
磯崎新の建物	1人	0%
一度は見てみたい、また来てみたいと思われる建物。「大分らしい」が何かは解りませんが、建物施設自体が一つの作品であるような、LEDでライトアップ、イルミネーション等昼と夜で二面性を持たせる等ユニークな物を期待します。「大分らしさ」ととられる必要はない。	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
一日過ごしても楽しめる美術館。	1人	0%
一気に作り上げずに、徐々に充実させていく	1人	0%
一村一品で世界的にもこの言葉が言われています。私は他県の美術館も分かりませんが何かホットするような(意見までにはなりません)美術館が欲しいです。	1人	0%
一村一品の精神スタイル。	1人	0%
一村一品物産館にはしてもらいたくない。	1人	0%
一般の人が常に来るように「一村一品」「大分のうまいもの店」「大分の景色」等の付加価値をつける。	1人	0%
田舎らしい中に新しい生活を感じさせる。 一村一品的発想をしない。	1人	0%
今あるものを再生する方が共感をよぶ(例:マルシヨクを杵築市役所へ)	1人	0%
美しい自然に囲まれた別府公園の中に世界に誇るヨーロッパの絵画も受け入れ可能な展示スペースを持つ美術館を実現させて欲しい。岡山や福岡県立美術館を参考に質の高い美術館を別府に。	1人	0%
海	1人	0%
海、山、温泉、別府らしさ	1人	0%
海と山、温泉を思い浮かべることができるような大分らしさのある施設	1人	0%
海と山と川と明るい人柄。	1人	0%
海の幸山の幸を食せる環境	1人	0%
運営に県民が参加できる美術館	1人	0%
エコロジー+エコノミー+現代アート+大分の風土+ネイチャーの総合体。	1人	0%
大分芸術界の伝統や県の特産物を活用した展示等大分の良さをアピールしてほしい。	1人	0%
大分県産の杉や竹をふんだんに使ったぬくもりのある美術館	1人	0%
大分県出身者の作品等時代の変化を風靡したものや、名勝地の変化の状況が先行きわかるようなものにして欲しい。	1人	0%
大分県出身のアーティストの作品をより多くする	1人	0%
大分県出身の磯崎新氏や少なくとも大分県で活躍している建築家によるデザインの美術館(もちろんバリアフリーで)	1人	0%
大分県出身の芸術家、現在県内で活動している若手の芸術家の発表の場等を設ける。	1人	0%
大分県出身の芸術家と大分県を訪れた優れた芸術家との関係を興味深く展覧できるような工夫。	1人	0%
大分県出身の芸術家の作品に触れられる美術館	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
大分県出身の芸術家の作品を集中的に収集展示	1人	0%
大分県出身の人の作品をより多く扱う	1人	0%
大分県スペース、九州スペース、アジアスペース、地域別(各県美術館との連携)	1人	0%
大分県内の新たなる文化財の発見	1人	0%
大分県の自然や景観を活用できる美術館 ・温泉や食を併用し、県内外の観光客もが自由に利用できる美術館 ・民間美術館とも相乗効果が期待できる美術館	1人	0%
大分県の自然や景観を大事にしながら、それに調和でき、なお、大分県のPRできるような温泉や食なども楽しむことができるようなもの。 「おもてなし」の精神を大切にしたもの。	1人	0%
大分県の特産物やシンボルとなるものを彫刻して正門に飾る	1人	0%
大分県の特産物をテーマにした絵画を飾る	1人	0%
大分県の特性を見据えて日本一の県立美術館を	1人	0%
大分県のおいを出すデザイン	1人	0%
大分県の歴史・人物を紹介する大都市にはない素朴で豊かな大分を展示	1人	0%
大分県は海、山、温泉など自然に恵まれている。 久住などの雄大な景観は他では滅多にお目にかかれない。 また、瀬戸内海に続く海は景観にも優れ、魚の宝庫である。 さらに別府を始め温泉も素晴らしい。天から与えられたこれらの自然を実感できる、感謝するような気持ちにさせるイメージが欲しい。	1人	0%
大分県は江戸時代からの小藩分立の歴史があり、「大分らしい」「大分スタイル」と言ってもひとくりにするのは難しい。大分にこだわりすぎない方がよいのでは。	1人	0%
大分県は火山、地獄、温泉が多い県だからこのことを題材にした作品を集中して集めて特色を出す	1人	0%
大分県は留学生比率が高いので留学生と一体になった運営。学生・留学生の育成。例えばアジアの展示なら留学生にPR・説明してもらう。	1人	0%
大分工芸品の展示	1人	0%
大分産の建材を使用する。竹はほどほどに、杉を多用する。	1人	0%
大分市美術館が大分作家の展示をしているので、県立美術館は大分らしさより現代感や新しさを出したつくりがいい	1人	0%
大分で活躍しているプロアマを問わず芸術を愛好する人たちが気軽に作品を展示したり交流できるスペースがあり、大分の文化の発信源になるような美術館になってほしい。	1人	0%
大分に神と仏の2つは欠くことができない	1人	0%
大分にこだわりすぎず、逆に国際色豊かな美術館などの方が入場客も増えるのではないかと 思う。	1人	0%
大分にしかないものや美術館に入るだけで「自分は今大分に居るんだな」と感じられる美術館	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
大分にしかないような美術館	1人	0%
大分の「大」の字をイメージした建物。	1人	0%
大分の四季と歴史をイメージ出来るようなもの	1人	0%
大分の自然、そこに生きる人々がおもしろがって楽しんで世界中の人たちとつながっていける場	1人	0%
大分の自然・歴史・文化が感じられる美術館と言うことでしょうか。そのため一つはここで扱われる作品と大分の風土、歴史、自然との関わりが目に見えるように展示等の工夫をすることが上げられます。しかし、もう一つ重要なことは、美術館で行われる様々な活動において、それが大分という場所で行われていることが強く感じられる事です。そのためには、美術館の建築そのものがその建てられる場所に於いて大分の自然や歴史を再発見させてくれるものである必要があるのではないのでしょうか。	1人	0%
大分の植物を緑のカーテンに使う	1人	0%
大分のシンボルの一つとなるようなスタイル、独自性を取り入れる。	1人	0%
大分の素晴らしい自然を意識し取り入れたものにしてもらいたい。	1人	0%
大分の代表である温泉をイメージした建物が理想的	1人	0%
大分の地が文化・芸術的に豊かな地であったことを包括的に示すことができないか。	1人	0%
大分の地から世界に向けて発信できる機能を持たせる	1人	0%
大分の伝統工芸、大分出身の芸術家の作品については紹介程度でよい。むしろ芸術全体への入口としての機能に重点をおいた方がよい。	1人	0%
大分の特産品をモチーフにしたものをつくる	1人	0%
大分の特色を生かしたデザイン(例えば竹細工等)を盛り込む	1人	0%
大分の美術館の売りはその歴史の長さにあると思う	1人	0%
大分的人是「青」が好き、「青」のイメージ	1人	0%
大分の古くから伝わる芸術を守りつつ、新しい発展を様々な分野の芸術が表現できる場になることだと思う。	1人	0%
大分の真ん中にある芸術性豊かな建物や彫刻などをできるだけ残し、県外の方や高齢者、家族連れで歩いて見学できるような回遊性のある大分の芸術・美術にしてほしい。	1人	0%
大分の魅力を最大限にいかせるような空間	1人	0%
大分の有名な美術品を手がけた方達の展示室をつくり、その関連した文献などの展示も同時に行って欲しい	1人	0%
大分の豊かな自然、これからの大分像を展示	1人	0%
大分の豊かな自然を活かした環境の中で、安らぎくつろぎを与えてくれるような美術館。	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
大分の豊かな自然を美術館が表現して欲しい。豊かな自然と近未来が調和した建築が望まれる。	1人	0%
大分の歴史	1人	0%
大分の歴史－南蛮文化を感じさせる美術館	1人	0%
大分は個性がないと思われがちなので、話題性をうちだすべき	1人	0%
大分は四季を通して大変住みよく、いろいろな面で素晴らしいところなので、その四季感に満ちた構想に	1人	0%
大分は他県に比べてつまらないので遊び心を大切にしたい	1人	0%
大分は豊後と言った大友氏の治世には日本の先進的な文化都市でありました。そのような歴史を踏まえて和と洋が調和した豊後のスタイルをイメージします。	1人	0%
大分は豊かな自然に囲まれた恵まれた環境にあることは、誇るべきことであり、多くの日本を代表する著名な作家を輩出しているのも、この豊かな自然、環境による所も多分にある。それ故、豊かな山々、川の流れなど、これらの自然を一望に見渡せることができ、交通の便も良い場所がよいと思われる。公園なども含め、県民が文化的で豊かな時間を過ごせる設定がよい。	1人	0%
大分より別府の方が他県に名が通っているので、別府にしかないもの別府温泉をメインにした美術館に	1人	0%
大分らしい美術館＝湯布院らしい美術館 湯布院の魅力「豊かな自然」「美しい景観」「非日常的なゆっくりとした時間と空間」	1人	0%
大分らしさ、大分スタイルは要りません。素晴らしい絵を沢山見るだけで結構。郷土愛と美術鑑賞をごっちゃにしたいけません。東京でも大阪スタイルでも良い。とにかくいい絵画が欲しい。	1人	0%
大分らしさは優しさ。人や地球に優しく、イベントやコンサートにも使えるように多機能型にして、広く県民に愛される保養型美術館	1人	0%
大分らしさや大分スタイルを求めることも大切だが、大分に行けばこんなアートが楽しめるといったような最先端美術館を発信してはどうか。	1人	0%
大分らしさを出すのは常設展の内容で良いのではないか。コンセプト重視で奇をてらう建物にするのはやめた方がよい。	1人	0%
大分を題材にした絵や絵本を紹介する	1人	0%
大分を代表する工芸品の製作体験など、見に行くだけでなく県民が参加できるようにする。豊かな感性、創造性を高める学習の場としても活用できるようにする。	1人	0%
大分を網羅することができる美術館	1人	0%
大いなる田舎	1人	0%
大きなガラス窓を設け、一方は大分川、もう片方は由布岳や鶴見岳を望めるようにする。	1人	0%
大友氏と西洋文化が結びついたコーナー	1人	0%
大友宗麟やキリシタンと結びつける。	1人	0%
大友宗麟の西洋スタイルでコレジオ的美術館	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
小川が流れメダカやミズスマシが泳ぎ、ホタル舞い、海が眼下に広がる芝生と木陰と散歩道があり、絵や工芸体験ができる館や、喫茶店やカフェも点在する美術館村構想。	1人	0%
穏やかで誠実	1人	0%
落ち着いた気持ちで制作できる	1人	0%
落ち着いて斬新なもの	1人	0%
音楽家コーナーの設置。(滝廉太郎、園田高広、立川澄人、中山悌一等)	1人	0%
温泉、海と山	1人	0%
温泉、音楽、海や山、緑など癒しの下地があり静かで広大な敷地の中で心安らかにゆとりをもって芸術を鑑賞できる施設	1人	0%
温泉、竹、音楽、自然(海と山と湯けむり)、彫刻、石仏や神社仏閣の文化財群	1人	0%
温泉コーナー(足湯等)	1人	0%
温泉と音楽を組み合わせ、瞑想と癒しの各々ホールを併設	1人	0%
温泉と芸術の旅の組み合わせ	1人	0%
温泉と食を併用し、県内外の観光客が自由に利用できる	1人	0%
温泉と竹を基調にした美術館。	1人	0%
温泉につかり身体をほぐし、美術品を鑑賞し、頭を癒す	1人	0%
温泉文化や竹工芸など伝統的なものを活かした美術館。	1人	0%
温泉や食や観光客もが自由に利用出来る美術館 日本庭園などを備えた「和」の美術館 民間美術館と相乗効果が期待できる美術館(湯布院地域の民間施設と湯布院には東急高原別荘があるので、東急電鉄の元会長の五島美術館など)	1人	0%
温泉や竹工芸とONSENツーリズムをイメージし、音楽と温泉そして海と山の自然を活かしたものをイメージしたい。	1人	0%
温泉や竹や美しい海岸線にマッチした建物で「別府スタイル」を前面に押し出していけるといい	1人	0%
温泉や地熱エネルギーの利用。	1人	0%
温泉を活かしたアーティストインレジデンス。	1人	0%
温泉をイメージしたあたたかさ。暖色系のイメージ	1人	0%
温泉をうまく館内に適用してもらいたい	1人	0%
温泉を利用した冷暖房設備と竹工芸を備えた泉都の顔となる美術館	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
外観はコンクリートの打ちっぱなしのように自然体で内装は杉や松、竹、ひのきなど県産の材料をたくさん使用し、ぬくもりを出す	1人	0%
外観は普通でも、中に入ると人の暖かさや心地よさに触れられる場所	1人	0%
外観や内装など素材が木であったり、竹であったり大分の伝統性を感じさせる工夫。	1人	0%
外見は上品、内面的にとっても活発なイメージ	1人	0%
学芸員など専門スタッフの充実が大分らしいにつながると思う。人材の充実をまず願う。	1人	0%
各市町村の大分らしい一村一品みたいなイメージを作してほしい。	1人	0%
神楽の写真と一緒に神楽面を少なくとも常設展示すること	1人	0%
飾らず気負わず心地よい雰囲気	1人	0%
風を感じる、ゆったりとした色合いと空間、ゴテゴテ重々しくないデザインの建物が理想	1人	0%
価値観の違う世界のものをあえて同時に同空間で展示することで、違いの面白さ、楽しさ、広がり共有してもらおう美術館	1人	0%
金沢に出来たような様式で大分の特徴を盛り込んだ楽しめるところ。(食も含めて)	1人	0%
カボスの香り	1人	0%
環境にやさしい	1人	0%
環境にやさしい、地域の情報発信力を高められるといったイメージを施設全体でイメージできるもの。大分の地域イメージを象徴する建物であって欲しい。	1人	0%
観光、留学生とのタイアップ	1人	0%
鑑賞してくれる人がアーティストにとって一番のエネルギーになるので子どもからお年寄りまでが参加できるワークショップ的なスタイルを進め、同時にプロフェッショナルなアーティストの作品があると地域の人たちに興味が湧くと思う。	1人	0%
感動を受ける場所。	1人	0%
郷土出身者・郷土関係のものを題材にした作品を集めた美術館	1人	0%
郷土出身の芸術家の常設展示とともに彼らを刺激・感化し影響を与えた先達芸術家を併設展示することで大分の芸術の歴史的「流れ」を紹介する	1人	0%
郷土の生んだ芸術家の作品が四季折々をテーマとし、一同に鑑賞できるような美術館	1人	0%
郷土の先輩の諸作品の収集・展示	1人	0%
近隣の施設美術館との併用活用を行う。	1人	0%
景観を重要視して五感を感じる美術館	1人	0%
芸術が身近な県	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
芸術的なものやスポーツ文化的なものを総合的に取り入れて、発信したり融合して新しいものを生み出す。	1人	0%
芸術にあまり関心がない人でも、行ってみたいくなるような芸術的イベントや子どもたちが喜び樂しめるような事が企画されると活気にあふれ、元気な美術館になる。	1人	0%
芸術を全般的にとらえ、各芸術の垣根を取り払うこと	1人	0%
県外から来る友人や知人も入館しやすい美術館。	1人	0%
県外からの観光客向けであれば、大分らしさが重要であると思うが、県民が利用する県民のための美術館構想ならば、県民に必要なものを盛り込むことのほうが、むしろ重要だと考える。「らしさ」は不必要。	1人	0%
県下各地で催される地方色豊かな行事の紹介等	1人	0%
玄関、居間、応接間、廊下など身近に感じる美術品のあれこれ	1人	0%
現在、過去(歴史)、未来(先進技術)	1人	0%
県産材を使って建物をつくる	1人	0%
県出身者の作品をより多く、保存展示する。県産材(例えば竹)を使用した作品を展示する。大分ゆかりの作品を展示する。大分の歴史を偲ばせる作品を展示する。	1人	0%
県出身の若手芸術家の応援を得る。	1人	0%
現代アートの斬新なもの(外国作家を含む)	1人	0%
県内各市町村との連携強化。	1人	0%
県内各地の美術館の作品の展示や交流、PR	1人	0%
県民が気楽に集える美術館であってほしい。	1人	0%
県民がつどえる場	1人	0%
県民総参加型の絵画・彫刻と親しめる美術館づくり	1人	0%
県や国の枠にとらわれないものが魅力を増すのではないか。	1人	0%
国際観光温泉都市の自然景観と湯煙がマッチする美術館のデザインを重要視して計画することが大事。建材は乾徳産の竹、杉等を使用し、緑と湯煙の中に一体化した美術館であってほしい。	1人	0%
国際的	1人	0%
国内で京都・東京・横浜・神戸くらい、アメリカで数カ所、ヨーロッパで数カ所と割合見てきた美術館ですが、アメリカNYのメトロポリタン美術館がヨーロッパのお城形式であるのに対し(各州の公立はこれ)、グッゲンハイム美術館は館全体が傾斜でしかも自然光取り入れて、全体が動いている感じで興味がありました。これをパルコに取り入れよと言うわけではありませんが、シンプルでしかも上品に。パチンコや的建物の別府の10号線は通るのも嫌だという心境です。	1人	0%
個性的な人が多いのでそれを活かしたもの	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
こだわりのあるデザイン。大分の作家を大事にすることも大事だが、その財産を持つ県民の新しい姿としてもっと現代美術的な要素を取り入れた奇抜な大分らしさを出して欲しい	1人	0%
こだわる理由がわからない。 らしさやスタイルは見てくれではないと思うので、運営していく中でできていくのではないか？ 「大分らしい」「大分スタイル」というのは重要な部分ではないと思う。	1人	0%
子どもから大人まで多くの年齢層の人が利用できる	1人	0%
子どもたちに芸術の良さを勉強させて、続々と芸術家が出てくる美術館	1人	0%
子どもと一緒に楽しめる	1人	0%
最初から無理に「大分らしい」にこだわらなくてもよいと思う。美術館が進化していく中で自然に生まれてくるものであると思う。	1人	0%
最先端デザイン過ぎず、自然の豊かさもイメージできるもの	1人	0%
さつき、松等の盆栽、茶、花と絵画等美術の融和、調和	1人	0%
様々な分野の新しい文化芸術に敏感であり続け、また率先して取り込み発信する	1人	0%
さわやかなイメージがあるので、美術館もさわやかでシンプルな感じがいい	1人	0%
視覚と聴覚との調和	1人	0%
四季折々の自然、憩いの場、カフェ、レストランの充実、異空間を感じさせる場所	1人	0%
四季を感じる美術館に通ずるが大分の自然をアピールする。	1人	0%
四季を通じての自然。	1人	0%
静かな環境の中で芸術を楽しむ	1人	0%
自然(海と山)に恵まれた温泉に囲まれた静かな場所。	1人	0%
自然、温泉 かぼす、しいたけ、烏天、冷めん、ごまだしうどん等食の文化 南蛮文化	1人	0%
自然、ゆったり感、のんびり感、ホッとするような空間。	1人	0%
自然・温泉・観光	1人	0%
自然・景観・農村風景と一体となった施設	1人	0%
自然が1つの作品になっているような場をつくる	1人	0%
自然史博物館を併設したような美術館	1人	0%
自然と芸術の調和 地元の作家の紹介	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
自然と文化を大事にする湯布院なら他県にないスタイルを追求できる	1人	0%
自然と緑と影	1人	0%
自然に恵まれ温かく落ち着いたイメージ。次世代へ繋がるイメージ。気軽にいけるイメージ。	1人	0%
自然の財産と人々が昔から大切に築き上げてきた歴史的建造物を惜しみなく前面にアピールした美術館。	1人	0%
自然の中にあり憩いの場としても活用できる	1人	0%
自然の中の美術館で心が癒され、秋などは庭でミニコンサート、子ども達はスケッチができ、お年寄りにはベンチなどでゆっくり自然を楽しめるようにしてあげたらいいと思う	1人	0%
自然の良さを取り入れたものにしてほしい。	1人	0%
自然や景観を活用した美術館、温泉や食を楽しめる観光地と連携した美術館、他の美術館との相乗効果が期待できる美術館。	1人	0%
自然を生かした格調の高い次世代にも残せるもの。	1人	0%
自然を大切に作る美術館。	1人	0%
自然をモチーフにした作品の展示	1人	0%
市町村所蔵品の展覧会やその逆を実施し、市町村連携をおこなう「スタイル」	1人	0%
周囲の環境、施設、収蔵品等に魅力のある美術館	1人	0%
柔軟に新しいものを積極的に取り込んでいく	1人	0%
周辺を緑地公園として桜の木などを植え、散歩コースもつくり、花見、散歩からの美術館。その逆もできると何回も来館する人も出てくる。	1人	0%
住民が喜び参加できる「しかけ」をつくる＝おもてなしの気持ち	1人	0%
従来の「大分」は、歴史的な府内に限定した地域並びに県内の先哲に限られていたように思えるので、これからはグローバルな日本の美術館にして、留学生たちも来館したくなるような美術館を	1人	0%
従来のイメージから脱却して、真に新しい時代の「大分らしさ」を持った美術館スタイルが必要。	1人	0%
従来の静かな場所ではなく、声を出せる場所	1人	0%
樹木の緑を活かし、エントランスで四季が見事に感じられるようにしてほしい。	1人	0%
旬の料理が食べられるレストランを設置した美術館	1人	0%
小・中・高校の教育、成長の一環の過程で美術館を体験づくりの場として利用する	1人	0%
障害者との共生	1人	0%
障害者や高齢者や子どもたちが集えること	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
小学生から高校生が楽しくて勉強になる場にしてほしい。それが大分らしさにつながると思う。	1人	0%
城下の町というイメージ	1人	0%
常設展ではいつでも郷土の生んだ芸術の作品に触れることができ、外を見れば上野の山も含めた四季が感じられる植物・水等を満喫できる美術館であって欲しい。	1人	0%
小藩分立による多様な文化の継承	1人	0%
食文化	1人	0%
神社仏閣等も紹介	1人	0%
シンボル→ランドマーク的なモノの確立	1人	0%
すべての人たちが交流できる場所	1人	0%
世界的な名画から国内作品までの絵画シアターがあり、癒しの空間の中で作品が見られ、音楽が聞け、説明も聞け、リラックスできるスペース。わくわく活気のあるスペースと静かにゆったり過ごせるスペースなど、違った顔を見せる美術館。	1人	0%
全国に誇れる多様で豊かな自然を美術館内外で感じられること	1人	0%
全国に誇れる多様な豊かな自然があり、高山辰雄や福田平八郎、人間国宝の生野祥雲齋を輩出するなど美術、竹工芸、竹細工などが有名である。それらを活かしたどこにもない地域の美術館。	1人	0%
大航海時代、Bungoは日本を地図上で二分する大国だった。美術館のコンセプトにも大海原をかけめぐるような地球規模の覇気が欲しい。アジアだけでなく地球レベルの国際化、交流が「大分スタイル」だ。国際ビエンナーレやトリエンナーレ等国際展をどんどん開催する「大分らしい」美術館を望む。	1人	0%
高崎山、温泉、太陽の家(障がい者に優しい)がキーワード。	1人	0%
竹、小鹿田焼、南画	1人	0%
竹工芸品の常設展示 国内でも竹工の美術館はないようですので、いつでも大分に行けば竹工を見ることができれば注目されると思う。現役作家の優品を計画的に購入所蔵するべき。そうでなければ海外に持って行ってしまわれる。	1人	0%
竹工芸や小鹿田焼き、豊後絞りとかこれからも伝承していくと良いと思います。	1人	0%
竹細工を前面に建物の外観から取り入れる。竹燈籠の照明など。	1人	0%
竹材をふんだんに採用する	1人	0%
竹製品。	1人	0%
竹とアートと自然をミックスした緑あふれる美術館	1人	0%
竹の收藏が多いと聞いている。竹作品、オブジェコーナー 温泉を取り入れた	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
他県にないスタイルにしてほしい。	1人	0%
多種多様	1人	0%
多世代、異文化交流など、様々な方々に関わる(運営面においても)スタイル。	1人	0%
建物から別府湾、地獄の湯煙、バックに鶴見山を一望でき、敷地入口まで竹をいかした庭園をつくり来館者が感動するような外見	1人	0%
単体施設ではなく、郷土色を出せる様な施設として公園として活用できたり、温泉を利用したりなど、大分県内の一村一品の紹介や食べ物の提供など	1人	0%
単に「竹」とか「豊後南画」などを集めるのではなく、日本の美術館にない新しい方式があればよい。名画を写生することが可能とか。	1人	0%
地域が活性化するように協働する。	1人	0%
地域の歴史の成り立ちを感じさせるもの。	1人	0%
近くに海があり、山や高原も近い。温泉もありで、自然に恵まれた大分ではあるが、いざ出かけるとなると、ほとんどの市民が「車で」となる。町の中にあつて、ふと「自然の中に」と感じる様なスペースを期待している。	1人	0%
地球と接する感じ	1人	0%
竹林	1人	0%
竹林山を連想する美術館	1人	0%
長期的なビジョンがあれば、おのずと「大分らしさ」を持った美術館に成長していくはず。	1人	0%
つくられた小さな庭でも生きていける生き物の生命力が見られるまち	1人	0%
鶴見の山からの傾斜で海へと続く自然。	1人	0%
伝統あるものを展示するだけでなく、今ここから生み出して世界に知らしめる活動でありたい。「大分から世界へ」「芸術文化を観光する町一大分県」	1人	0%
答申にもあるように、「風光明媚であること」「資源豊かであること」「芸術的素地があること」これが大分らしい美術館。 歴史的に見ても、西洋音楽、西洋医学ともに大分県は発祥の地であることからしても、県民性として、よいもののまね上手があると思う。他に比類無き「大分スタイル」とは何かとなると、それは【世界中の知恵をもらって、そこに大分の個性を活かすこと】こそ、「大分らしさ」ではないでしょうか。	1人	0%
都会とは違う地方の良さが表現されている建物、自然との調和	1人	0%
都市と農村の四季を肌で感じる心温かな施設	1人	0%
都市の中にあつても杜の中にあるイメージの美術館。	1人	0%
内装では竹や木材、和紙など目にやわらかいものでつくってほしい	1人	0%
内装に竹をふんだんに使って欲しい	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
中に無料の足湯を設ける	1人	0%
なじみやすく吸収しやすい	1人	0%
南画の常設展示 もう一度南画を見直すことに力をそそぐ必要がある。特に県外の方にとって、大分に行けばいつでも南画を見ることができることを強くPRすること。	1人	0%
何でもありが大分らしいかもしれない。	1人	0%
日本一美しいもの、日本一大きいこと、日本一機能性にすぐれていること、日本一鑑賞利用性の高いこと、世界からの訪問者のあこがれになること	1人	0%
日本画や竹工芸を収集展示	1人	0%
人情にふれあえる環境	1人	0%
のんびり	1人	0%
ハード的には、別府公園のように緑に囲まれた癒しの場を兼ね備えた美術館が「大分らしい」につながると思う	1人	0%
莫大な金をかけた立派な施設はどこにでもある。今回、大分の美術館もそれなりの金が必要なことは仕方がない。びかびかの施設も必要だが、その中にも地方都市の田舎的な雰囲気を感じ出す仕掛けも必要。温泉や海、あるいは竹など材料として素朴だが、心と心がふれあう癒しの空間として強調した施設が望まれる。	1人	0%
派手すぎず、地味すぎない個性あふれる感じ	1人	0%
林と草原をイメージするもの	1人	0%
美術・音楽のみの専門高校の存在は全国に誇れるもの。大学や高校と連携された「大分スタイル」	1人	0%
美術館周辺の環境のイメージ 森と高原と湖に囲まれ、館外にも美術的価値の体感が可能である施設。野生生物との共生、ふれあい、温泉の入湯など四季や五感を堪能できるスタイルとする。	1人	0%
美術館と温泉を併用した大型美術館	1人	0%
美術館の中に温泉があり、入浴も楽しめる美術館。	1人	0%
美術と音楽が結びつくスタイル、気軽に美に向き合えるスタイル。	1人	0%
美術を学ぶ学生や若手芸術作家を取り上げつつ、福田平八郎や高山辰雄などの郷土作家を積極的に紹介していく美術館	1人	0%
ひたむきさ	1人	0%
一目見てインパクトのある建築物、芸術性のあるデザインの建物	1人	0%
人を「もてなす」場として大分らしい「こだわり」が必要だと思う。	1人	0%
広い空間があり、作品と建物が一体となるような美術館	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
広い施設を持ち、昔の大分の常設写真大伴氏の高崎山城跡の展示、古道具(竹製の生活用品など)など大分の歴史を見れるもの	1人	0%
風景	1人	0%
古いものや伝統を大切に残し、その上で新しいものがあることを考える	1人	0%
古いものを大切にすると同時に時代を追いかけて成長していく努力が必要。	1人	0%
ふるさと	1人	0%
ふるさとの美術部を応援する美術館であって欲しい	1人	0%
プロスポーツ	1人	0%
文化面の遅れを取り戻すもの	1人	0%
豊後南画の画家達や、福田平八郎、高山辰雄らのことを調べていると、彼らにとって「美術」がとても身近な存在であったことが伝わってきます。 福田の実家の文具屋のショーウィンドーには、彼の鯉の写生の本物が飾られていたという話は、とても大分らしいと感じます。 「応接間」よりもっと身近な感覚を目指した方がよいのではないかと個人的には思います。	1人	0%
豊後の山河と世界とのつながり、日本の中の豊後(大分)	1人	0%
豊後の歴史に関する展示、近県の歴史に関する展示	1人	0%
別府の自然環境に恵まれた立地に世界に大分しかない美術館。地球の財産である温泉を共有することが可能。	1人	0%
別府の自然と期間を多面的に取り入れ、美術館そのものが四季を感じさせ、癒しの場となるような文化県大分をイメージアップさせる美術館	1人	0%
別府湾、山々、温泉の湯けむりの中にそびえ立つ「大分らしい」「大分にしかない」美術館。	1人	0%
別府湾の美しい眺めを活かし、うみたまご周辺に新美術館を建てる。 できればJRの駅を増やして、うみたまご、高崎山美術館が連動して見学出来るようにする。 ※ただし莫大なコストがかかる。	1人	0%
別府を代表する温泉を利用したモニュメントの設置	1人	0%
豊富な観光資源があるので、各地域の観光資源にかかわる美術(例:竹工芸、陶芸品、人形等)の常設展示	1人	0%
北西から南東へと続く自然の地形と色彩を表現するもの。四季折々の風景を表す。	1人	0%
ほっとする、なごむ	1人	0%
町歩き	1人	0%
緑	1人	0%
緑(竹、自然木)	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
緑あふれる施設	1人	0%
めじろんを使う	1人	0%
もてなしの心	1人	0%
ものづくり	1人	0%
森・林・山と一体化した形	1人	0%
森の中にある美術館。建物の中から竹林が見える等。	1人	0%
山あり海あり温泉あり豊の風が香る大分。	1人	0%
山河有	1人	0%
山と海、自然をコンセプトにした美術館	1人	0%
雄大さ	1人	0%
有名な芸術家を次世代に伝えていき、新しく芸術家を出していくこと	1人	0%
湯けむり、山里、やすらぎ、ふれあい	1人	0%
湯けむりが見える美術館。館内に温泉を作り、タイルに作品を展示できるようにして、タイル画を企画的に募集する。	1人	0%
ゆったりとしたイメージ	1人	0%
由布院にある多数の美術館	1人	0%
由布の山々をイメージさせる壮大な美術館。	1人	0%
由布山が一望出来る	1人	0%
よそでは滅多に見られない優品を所蔵・展示する、挑発的な展覧会を企画・開催する、徹底したバリアフリー環境にするなど、ほかにはない「大分らしさ」が必要	1人	0%
来館者にワクワクした気持ちを持たせる楽しいイメージの美術館	1人	0%
来場を期待するエリアを県内だけでなく、福岡県、熊本県、宮崎県の県境を含む拡大エリアとし、200万エリアにふさわしい規模と企画の展開にすれば、そこに大分スタイルが誕生する。	1人	0%
らしいというのがよく分からない。	1人	0%
歴史	1人	0%
歴史ある湯の町、湯煙が立ち上る町、東は国東半島、佐田岬、西は扇山、鶴見岳の眺望が広がる素晴らしい環境、伝統的な竹工芸。竹細工の制作工程の公開展示	1人	0%
歴史を感じるが、新しさも大いに感じることができる	1人	0%

ご意見の概要	回答件数	割合
わかりやすさ(解説)と気軽なアプローチ	1 人	0 %
海、山、空、光、空気をいっぱい感じるものに	1 人	0 %
県内の風景を題材にした絵画や写真などを随所に展示し、美術館を訪れた人がそうした題材となった現地にも足を運びたいような雰囲気。	1 人	0 %